

2 学習習慣の基盤を育む授業づくりの推進

(1) めざす授業像

生涯にわたって学習するうえでの基盤となる、問いを立てる力、情報を収集・蓄積・読解・分析する力、自分らしく表現する力を育む授業

(2) 推進項目

不確実な今後の社会を生きる児童生徒には、「自立した学びの力」（子どもたちが主体的に自らの学びを組み立てたり、学びの意欲を維持し続けたり、自分にあった学びの方法を開発したりする力）の育成が不可欠である。幼・小・中・高を通して、「全ての教科で大切にしたい学びの過程」※（以下「学びの過程」という。）を活用する場面や経験の積み重ねを意識することで、児童生徒の「自立した学びの力」を育てることが必要である。

<p>※「全ての教科で大切にしたい学びの過程」とは</p> <p>それぞれの教科等の学習過程のうち共通して大切にしているだけ学びの過程をなるべく簡単な言葉で示したもの（具体的には以下に示す。）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①「問い」をもつ ②課題の設定 ③課題の追究 ④まとめ・表現 ⑤取組の振り返り・価値づけ</p> </div>	<p>○「問い」をもつとは</p> <p>学習の中で疑問に思うことや知りたいことなどを自分自身で発見し、言葉で表現すること</p> <p>○課題の設定とは</p> <p>「問い」を解決するために具体的に取り組むべきことを明らかにすること</p>
--	--

① 問題発見・解決能力を育む授業の推進

問題解決・発見能力は、言語能力、情報活用能力とともに学習の基盤となる資質・能力の1つであり、各教科等の学習の過程の中で重視することで育成されていくものである。

ア 授業の工夫

- ・児童生徒が「問い」をもつことができるテーマ・教材・授業展開・発問等の工夫
- ・『学びの過程』を学ぶ単元と「獲得した『学びの過程』を活用する単元」を意識し、重点化して実践
- ・「学びの過程」に活用可能な知識・技能の保障

イ 大切にしたい「学びの過程」を活用する場面の工夫

- ・大切にしたい「学びの過程」が、自分の生活や地域社会の課題解決等、様々な場面で活用できるという気づきを促す。

ウ 児童生徒が自分で「学びの過程」を活用できるようにするために

- ・児童生徒が「なぜ」「どうして」を安心して話すことができる雰囲気づくりを大切にする。
- ・児童生徒が様々な場面で「なぜ」「どうして」と問いかける習慣づけを大切にする。

② 授業の学びと家庭学習をつなぐ工夫

ア 家庭学習において意図的に学びを広げ深められるような授業展開

- ・家庭学習において学習内容の定着を図り、獲得した知識や技能を活かす課題を設定する。
- ・授業の中での疑問を大切に、それを追究する課題を設定する。
- ・授業で学んだことと社会との関わりを意識させ、自ら調べる課題を設定する。

イ 学習環境の保障

- ・一人一台端末の持ち帰り
- ・インターネット及び AI 等を活用した学習の保障

ウ 家庭・地域との連携

- ・学校・家庭・地域が家庭学習の意義を共通に認識し、同じ目線で児童生徒に声掛けができる環境をつくる。